

りょうぜん天蚕の会だより

【第 5 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会会長 柳沼 泰衛（電話・FAX 024-586-3004）

【 会長あいさつ 】

立春の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」は、この度5年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と関係機関のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、当会の活動趣旨は、霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進しようとするものです。

設立以来、これまで伊達市、福島県関係機関等のご支援をいただき、天蚕繭生産の拡大と新たな繭製品開発に取り組むと共に、小学校等への教材提供、様



糸紬作業中

々なグリーンツーリズム交流活動等を行ってきました。そして、3カ年間の県の「地域づくりサポート事業」は、大きな成果を上げたところであります。糸紬作業中

20年度は、約7,000粒の繭を収穫し、「天蚕糸による布織物や和装装飾品」等の製作に活用を図ってまいりました。また、「全国シルクサミット」「生涯学習見本市」への参加及び「特産品コンクール」への出品など、特筆すべき活動を実践しました。これらは新聞テレビの取材報道により全国から大きな反響と注目を浴びたところであります。

21年度はこの成果と実績を基に更なる前進を図るつもりでありますので、皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

りょうぜん天蚕の会だより

全国生涯学習フェスティバルに出品

～天蚕紬織物賞賛を浴びる～

10月11日～15日まで、郡山市ビッグパレットで「全国生涯学習フェスティバル」が開催され、伊達市ブースに当会の作品を展示しました。フェスティバル初日には秋篠宮夫妻が天蚕紬織物に大変興味を示され、当会のパンフレットを所望された程注目の展示でした。

期間中、柳沼会長はじめ連日会員が出品品の説明を行い、天蚕の幼虫を初めて目にし、萌葱色の美しい幼虫に感嘆の声が多く聞かれました。

展示説明に当たった会員は、会長の他、菅野秀一、阿久津チヨ、安田恭子、柳沼信子、大友靖子、生沼俊夫、河田明芳、八島夫妻、延べ10人でした。



連日、大勢の観客で賑わう



伊達市ブース全景

「全国シルクサミット2008 伊ふくしま」に出品

～会長の発表と天蚕製品の展示～

10月23～24日、農業生物資源研究所と福島県の共同主催による「全国シルクサミット」が郡山市日和田の福島県農業総合センターで開催されました。今回、アクセサリー、ショール、紬織ハンドバック三種、天蚕石鹸の他、天蚕の5令幼虫を展示すると共に、柳沼会長がこれまでの活動事例をユーモアを交えて発表しました。



サミットには昨年りょうぜん子供の村で開かれた全国天蚕セミナーの基調講演をされた赤井弘先生はじめ穂高天蚕センター職員、白鷹町天蚕生産者、ファラドール、秩父農業センターの近氏等旧知の方々も参加されていた。初日夕刻、会場を郡山市内ホテルにて懇親会が開かれ、会長夫妻、斎藤行応、八島夫妻、八島時男、大友靖子、高野金助、堀江の9名が参加。発表・展示参加は菅野公、河田明芳、安田恭子の3氏で、合計12名でした。

赤井先生には、21年10月末に長野県須坂市で開催するシルクサミットに、これ等展示した製品を紹介するよう強い要望がありました。また、この大会はシルクの新たな用途開発に明るい展望を示す内容のサミットでした。

りょうぜん天蚕の会だより

「霊山町文化祭」に天蚕の会作品を特別展示

“町の特産品に”と励ましの声

10月25～26日、霊山文化団体連絡協議会主催による「霊山町文化祭」が中央公民館において開催されました。協議会より天蚕製品を広く町民に知っていただく機会として特別展示の要請があり、シルクサミット展示品の一部を展示しました。

多くの来場者から「町の特産品として有望である」と励ましの声をいただきました。同時にまだまだ町民の認知度が低いことも分かったので、機会ある毎にPR活動の必要性を感じました。「掛田折り返し糸」の復活にかける灯を燃やし続けたいと感じた文化祭特別参加でありました。

注目を浴びた展示物等



「東京ふるさと霊山会」にて展示即売会

“渡辺霊山会長より、首都圏でのPRと販売促進の助言”

11月15日、上野精養軒で開かれた「東京ふるさと霊山会」に柳沼会長と菅野公氏が参加して、「天蚕商品」の展示、即売会を行いPRをしました。また、当会より会員へのお楽しみ抽選会への景品として10点（一万円相当）を寄付しました。

天蚕商品への関心は高く、特に渡辺会長は、「日本の中央官庁の集中する首都圏でのショールとハンドバックのコンビによる着用を考えた展示販売が有効」との貴重な助言をいただきました。

↓渡辺会長(左端)とショールとバックを試着する出席者



「第8回ふくしま特産品コンクール」に出品

“自然の風合と貴重性が優れ、素材性が極めて高い”と高い評価を得る。

11月20日、福島グリーンパレスにおいて県観光物産交流協会主催による「第8回ふくしま特産品コンクール」が開催されました。当会では、ハンドバック3種を出品、会長自ら商品説明にあたりました。NHKテレビ等で紹介されるなど好評を得るも入選には一步及ばなかったものの、下記に示すように審査員の眼にも素材性の高品位は認められると共に貴重性は高く評価されたので、今後デザイン性について県特産品アドバイザーの指導が必要と考える評価でした。

審査員評は、

1. 特産品としての素材性は極めて高い。
2. もえぎ色の自然の風合と貴重性が優れている。
3. 商品として販売実績を積むこと。
4. バッグの手汚れ対策に留意し発水性を検討すること。
5. 織布の風合、感触は好評である。
6. デザイン、型等中高年向きと思われるが若者感覚ではキンチャク性のデザイン等手軽利便性を考えてみる。



特産品コンクールでは、出品前の販売実績を記入することになっているので、①市場性が低いと見られたこと、②和洋両用という型に理解が及ばないこと、③天蚕生糸は他の繊維に比べ発水性に秀れているとの特性への認知度が低い、なども審査に影響したと思われます。

町内4小学校に天蚕観察用幼虫寄贈

天蚕と飼育家蚕を素材にしたコサージュを胸に卒業式に望む……【大石小】

掛田、下小国、泉原、大石の各小学校に対し19年度に天蚕飼育観察ハウスを増設寄贈していますが、20年度も各小学校ともに3年生の総合学習として、5月上旬から中旬にかけて幼虫を持参し飼育観察を実施しました。

大石小学校は柳沼会長と伊達普及所職員による養蚕に関する基礎知識の習得や天蚕の特性、あるいは飼育法について支援し、その他の小学校は八島事務長が講演、指導助言を行ないました。

「掛田折り返し糸」や「養蚕茶話記」、更に日本最初の民間の養蚕伝習所が開設された歴史と伝統の町に話が及ぶと生徒達は目を輝かせ熱心に聞き入りました。

また、大石小では恒例の天蚕と飼育家蚕まゆを素材としたコサージュづくりが行われ、それぞれ作ったコサージュを胸に卒業式に臨むことになっています。



りょうぜん天蚕の会だより

天蚕品展示・即売会行っ

“もえぎ色の自然素材に魅かれて” 予約増加

毎年恒例となった福島市パセオ通りの岡崎陶器店「ミニギャラリー」において、12月2日～12月21日に完成したばかりの天蚕紬織ハンドバッグ4種類、ショール、紙入れ、名刺入れ等30点を展示即売会を実施しました。

訪れた方々は一様にもえぎ色の自然素材に魅かれつつも、高価な商品としてなかなか手が出ないようでしたが、1名の予約を得ることができました。



会員の活動スナップ





